

# 平成 28 年度私費外国人留学生入学試験

## 小論文問題

(10:00～11:30)

筑波大学生命環境学群生物資源学類

### 【 注 意 】

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 机の上には受験票、筆記用具、消しゴム、時計以外のものを置いてはいけません。
3. 答案用紙の1番上の欄に学群（生命環境）、学類（生物資源）、氏名、受験番号を正確に記入しなさい。
4. 解答用紙の2番目の欄に問題番号を記し、それぞれ1枚の答案用紙を使用し、横書きで記入しなさい。
5. 下書き用紙が答案用紙についているので、適宜、利用してください。

問題1、問題2のそれぞれについて、答案用紙を1枚ずつ使用して解答しなさい。

**【問題1】**

塩類や石油による汚染、重金属汚染などで耕作ができなくなった土地を、そのような環境に耐える植物を栽培することで、再び耕作可能な土地に戻す方法をファイトリメディエーション(Phytoremediation)と呼んでいる。ファイトリメディエーションでは、例えば植物体内に塩類を蓄積する植物を栽培して刈り取ることで土地から塩類を除去するといった試みがなされている。有害物質を除去するには、他にも土壌を入れ替えるといった物理的な方法や、化学物質を用いた中和などの化学的な方法も考えられる。ファイトリメディエーションは、物理的方法や化学的方法と比較してどのような点が優れており、どのような点が劣っていると考えられるか述べなさい。

## 【問題 2】

環太平洋パートナーシップ協定 (Trans-Pacific Partnership、以下 TPP 協定) は、2006 年にシンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイの 4 か国間で発効した経済連携協定である。2010 年に米国、豪州、ペルー、ベトナムが加わり、拡大交渉が開始された。その後、マレーシア、カナダ、メキシコ、日本が交渉に参加し、2015 年 10 月に大筋合意に至った。現在、協定の署名発効を目指していると報じられている。TPP 協定は、モノの関税だけでなく、サービスおよび投資の自由化を進め、さらには知的財産、電子商取引、環境、労働等、幅広い分野において、包括的で高い水準のバランスの取れた協定を図るものである。このような TPP 協定参加による日本農業へのメリットとデメリットについて述べなさい。